

2024年12月期 第2四半期 決算説明資料

CYBER SECURITY CLOUD

I 2024年12月期 第2四半期 決算概要



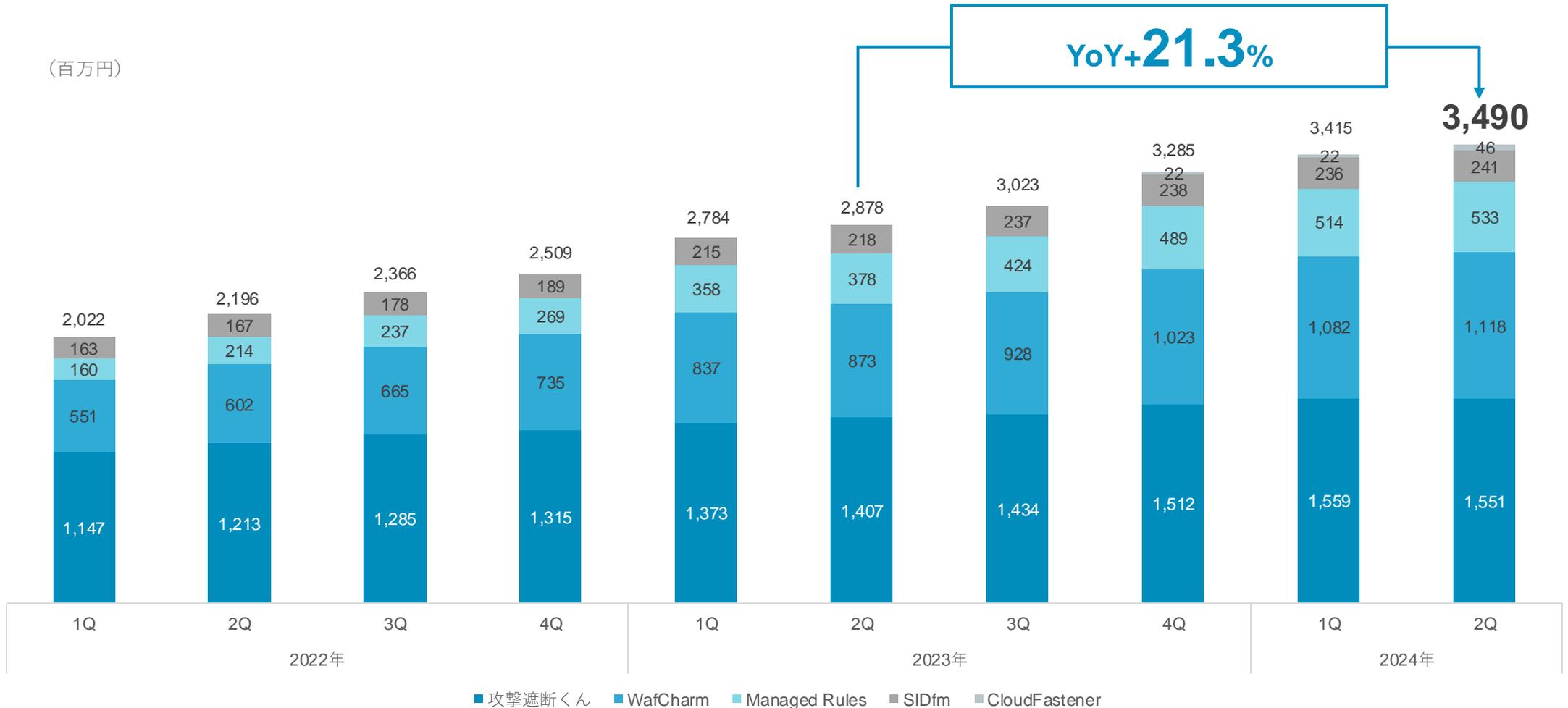
業績の概況

- 売上高は前年同期比+26.6%、営業利益は+60.8%を記録
- 下期は、将来の成長に向けた採用強化やマーケティング施策を実施予定

(百万円)	(連結) 2023年12月期 2Q累計	(連結) 2024年12月期 2Q累計	前年同期比	(連結) 2024年12月期 予想
売上高	1,455	1,843	+26.6%	3,800~4,000
売上総利益	1,008	1,285	+27.5%	—
営業利益	304	489	+60.8%	650~750
営業利益率 (%)	20.9%	26.6%	+5.7pt	—
経常利益	322	549	+70.6%	650~750
親会社株主に帰属する 中間純利益	220	372	+69.3%	450~520

ARRの推移

- 新規需要に対し着実に対応した結果、ARRは前年同期比+21.3%で着地
- WafCharmの旧プラン顧客※に対する価格改定効果により、3QのWafCharm ARRが1億円超増加予定

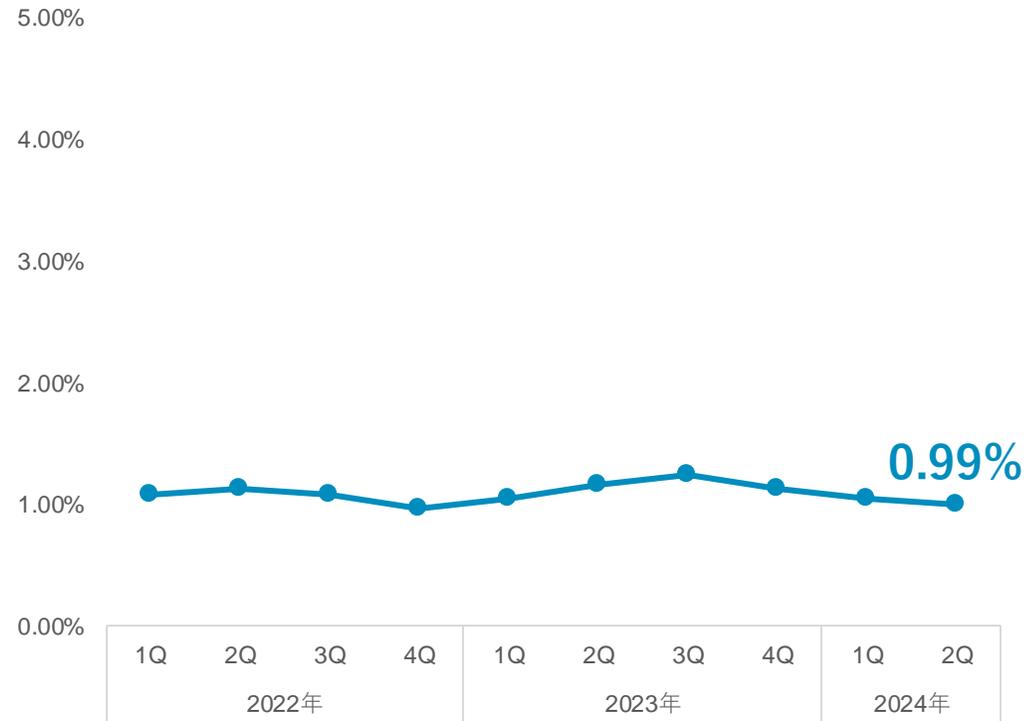


※ 2023年5月31日までに契約した顧客
 ARR: Annual Recurring Revenueのこと。対象月の月末時点におけるMRRを12倍することで年額に換算して算出
 MRRはサブスクリプションモデルにおけるMonthly Recurring Revenueの略で、既存顧客から毎月継続的に得られる収益の合計のこと

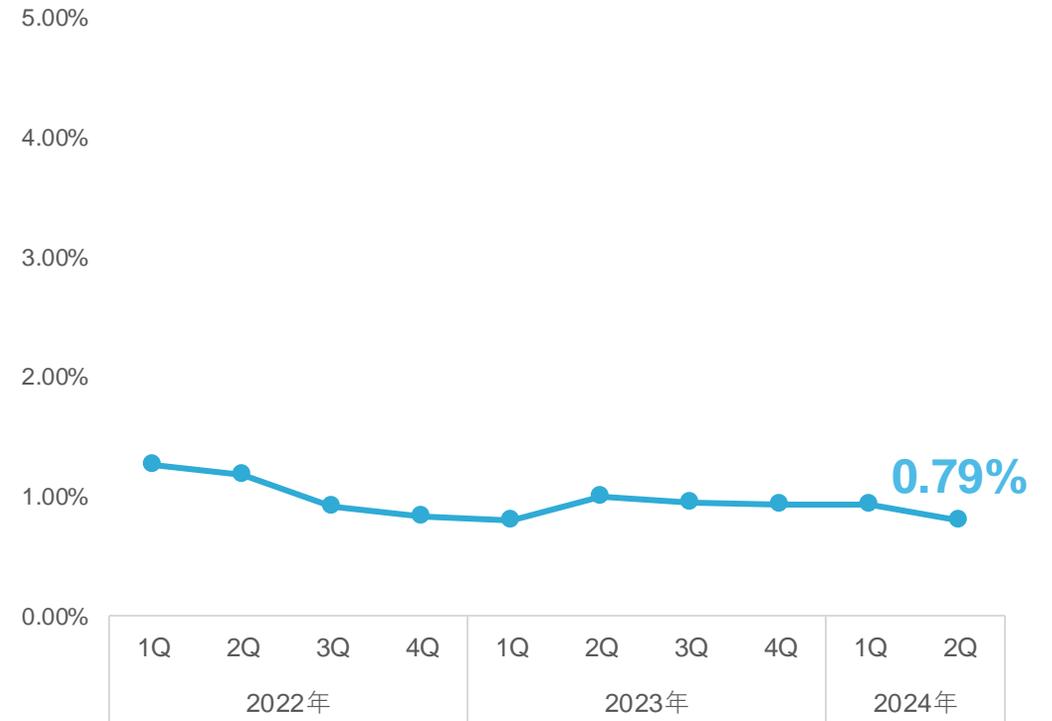
攻撃遮断くんとWafCharmの解約率

- 両プロダクトの解約率に大きな変化はなく安定して推移
- 引き続きカスタマーサクセス強化によって顧客課題を把握し、解約率の低位安定に努める

攻撃遮断くんの解約率※1

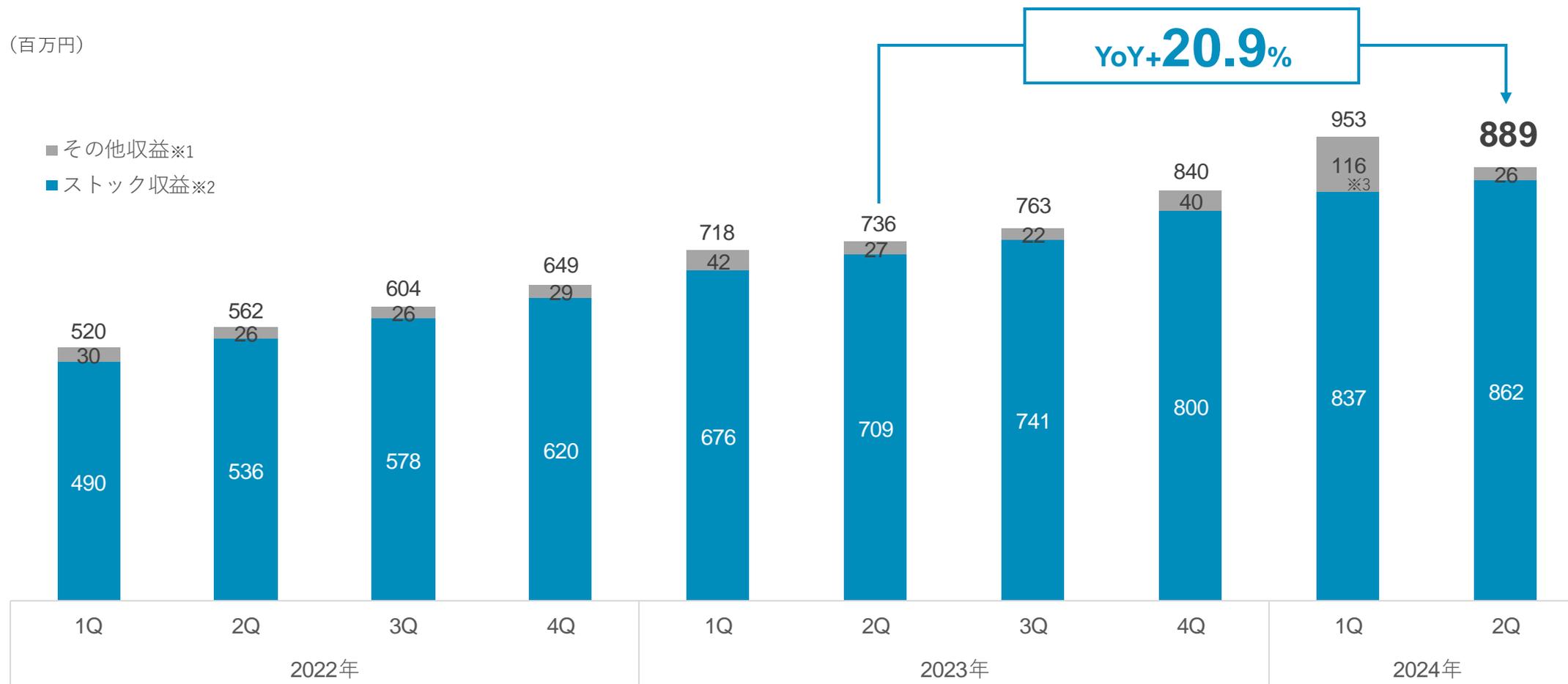


WafCharmの解約率※2



※1 MRRチャーンレートの直近12ヶ月平均をもとに作成。MRRチャーンレートとは、当月失ったMRRを先月末時点のMRRで除すことで計算される解約率
 ※2 ユーザー数の月次平均解約率（当月に課金終了したユーザー数 ÷ 前月末時点の課金ユーザー数）をもとに作成

- 1Qに計上したデジタル庁案件の一時要因が無くなりその他収益が減少するも、ストック収益は堅調に増加

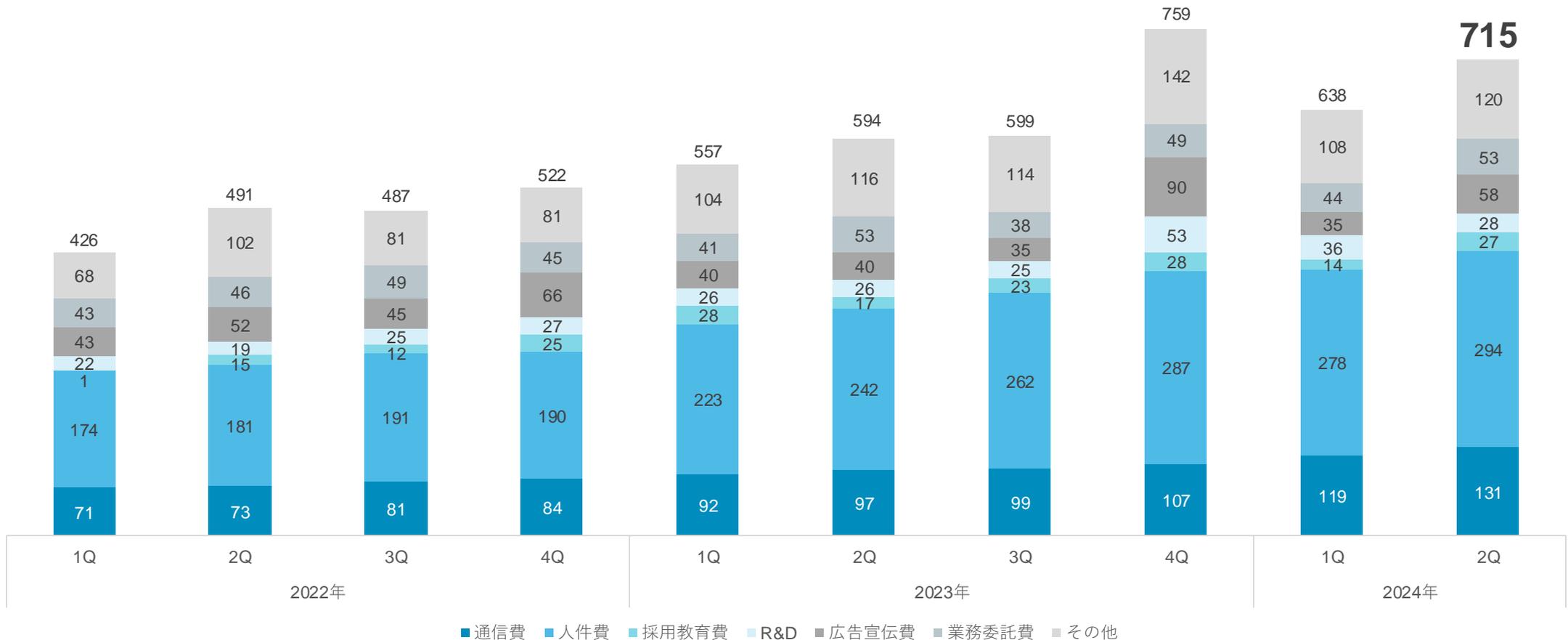


※1 攻撃遮断くんの初期導入費用や脆弱性診断等のスポット契約を含む売上高の合計
 ※2 攻撃遮断くん、WafCharm、Managed Rules、SIDfm、CloudFastenerのMRRの合計
 ※3 デジタル庁のガバメントクラウドに係る案件約70百万円を含む

営業費用（売上原価・販売費及び一般管理費）の推移

- 新規プロダクト開発や為替影響等による通信費増加と、マーケティング施策強化に伴う広告宣伝費の増加により、営業費用が上昇
- 下期については、昨年と同様にAWS最大の年次カンファレンスへの出展を予定しており、広告宣伝費を中心に増加を見込む

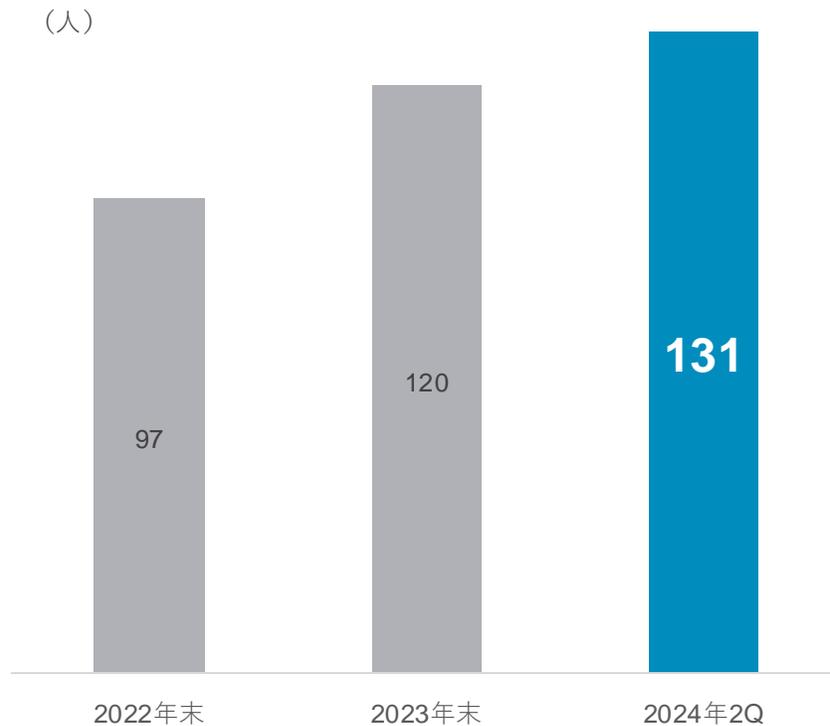
(百万円)



サイバーセキュリティクラウドの成長を支える従業員

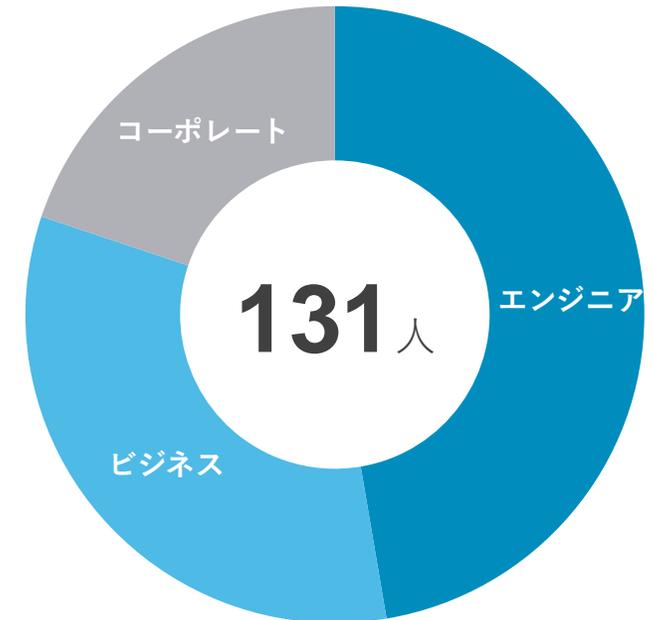
- エンジニアを中心とした継続的な採用活動により、人員数は着実に増加
- 下期は、来期以降の成長を見据えて採用活動を強化予定

従業員数の推移※



※人員数は、派遣社員を含む。また、日本法人と米国法人の人員を合算した数値を記載

2024年2Q 人員構成



II

2024年12月期 第2四半期 トピックス



CloudFastenerを富士ソフト社の独自ブランドとして販売開始

- 開発に加え販売面においても富士ソフト社と連携を強化し、富士ソフト社ブランドの『FujiFastener』を新たにリリース
- 富士ソフト社の豊富な知名度と大手顧客ネットワークを活用し、更なる販売力強化を目指す

FujiFastenerリリース



大型イベントへの初出展

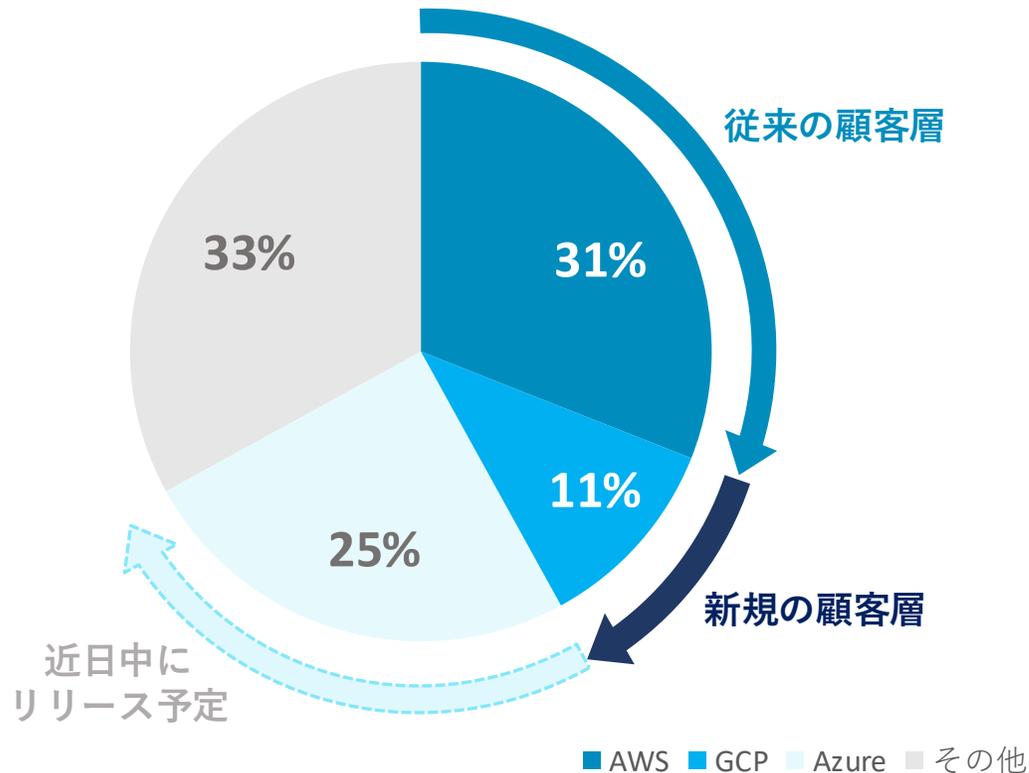


富士ソフト社として『FujiFastener』をAWS Summit Tokyo 2024（2024年6月開催）における最大規模のブースに出展し多くのリードを獲得

CloudFastenerがAWSに加え、Google Cloudにも対応

- AWSに加えGoogle Cloudに対応したことで、より多くのクラウドユーザーへの販売が可能に
- Microsoft Azure対応のリリースも近日中に控えており、主要なクラウドのカバレッジを拡大

パブリッククラウドのシェア ※



クラウドセキュリティの需要が更に高まる中、
マジョリティである3大クラウドへ対応

新たなAWS認定の取得による更なる信頼性の向上

- 企業のセキュリティ基盤となるAWSの注力サービス「Amazon Security Lake※」のパートナーに国内企業として初認定
- グローバル企業と同等の技術力および信頼性の証明により、グローバルでの顧客獲得を加速させる

The slide displays a grid of logos for Amazon Security Lake integrations, categorized into three sections: PARTNER SOURCES, PARTNER ANALYTICS, and SERVICE PARTNERS. The CSC logo is highlighted with a red box in the PARTNER ANALYTICS section. A presenter is visible in the bottom right corner of the slide.

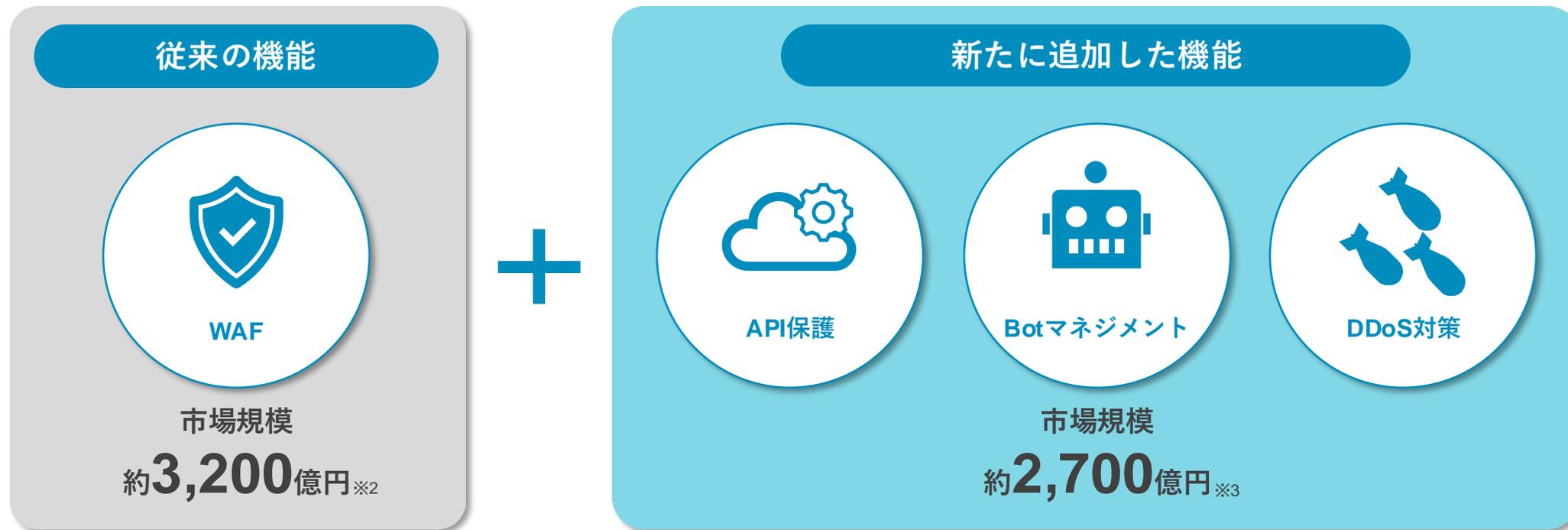
PARTNER SOURCES	PARTNER ANALYTICS	SERVICE PARTNERS
AIShield, aqua, Barracuda, Cisco SECURE, CLAROTY	CHAOSSEARCH, Cribl, CSC, DATADOG	accenture, Booz Allen, CMD, Deloitte.
CONFLUENT, Cribl, Contrast, CROWDSTRIKE, CYBERARK	DEVO, elastic, IBM, new relic, paloalto	DXC TECHNOLOGY, insbuilt, kyndryl, KUDELSKI SECURITY
DATABAHN, DARKTRACE, ExtraHop, Falco, FORTINET.	panther, Query, RAPID7, RIPJAR	EVIDEN, HCOP, IBM, Infosys
Gigamon, LACEWORK, Laminar, monad	securonix, SentinelOne, SOC PRIME, splunk>	leidos, MEGAZONE CLOUD, pwc
NETSCOUT, netskope, okta, ORCA security, paloalto	STELLAR, sumo logic, SWIMLANE, tégó	SOC PRIME, tcs, TATA CONSULTANCY SERVICES, wipro
Pingidentity, SailPoint, sentra, sysdig	tines, torq=, Trellix, wazuh.	
TANIUM, torq=, TALON, Trellix, TRENDI		
uptycs, VECTRA, vmware, WIZ, zscaler		

2024年6月に開催された「AWS re:Inforce」のKeynoteで発表（<https://www.youtube.com/watch?v=skH3Q90llss>）
登壇者：AWS CISO Chris Betz氏

※ Amazon Security Lakeとは、AWS 環境、SaaS プロバイダー、オンプレミス、クラウドソース、およびサードパーティーソースのセキュリティデータをAWSアカウントに保存されている専用のデータレイクに自動的に一元化するサービス

国内セキュリティメーカー初となるクラウド型WAAPのサービス提供開始

- 多様化するサイバー攻撃に対応するために、これまで提供してきたWAFからWAAP※1領域へ進出
- より高度なセキュリティ対策が求められる大手企業に対する導入を目指す



アプローチ可能な市場が約2倍に拡大

※1 Web Application and API Protectionの略称で、従来のWAFの機能に加えて、API保護、Botマネジメント、DDoS対策の3要素を組み合わせたもの

※2 Gartner 「Forecast: Information Security and Risk Management, Worldwide, 2019-2025, 3Q21 Update」

※3 下記資料を基に当社作成。\$1=150円で算出

Fortune Business Insights 「APIセキュリティテストツール市場規模、シェアおよび業界分析、展開モード別（クラウドベースおよびオンプレミス）、企業タイプ別（大企業および中小企業（SME））

エンドユーザー別（ITおよび電気通信、BFSI）、小売と消費財、ヘルスケアとライフサイエンス、政府と防衛、その他）、および地域予測、2024～2032年」

Straits research 「世界のBOTセキュリティ市場：コンポーネント別情報（スタンドアロンソリューション、サービス）、セキュリティタイプ別（Webセキュリティ、モバイルセキュリティ、APIセキュリティ）、

導入モード別（クラウド、オンプレミス）、組織規模別（中小企業（SME））」

Global Market Insights 「DDoS保護と緩和セキュリティ市場レポート2032」

SIDfmに政府主導で対策が進むSBOMに対応する機能を追加

- 米国と日本において、政府が次々とSBOM※1に関する法規制およびガイドラインを制定
- ソフトウェアサプライチェーンの複雑化に伴い、大手企業を中心に需要を見込む

開発の背景



開発サプライチェーンの弱点を悪用したサイバー攻撃被害の増加



2021年5月に、米国において「国家のサイバーセキュリティの向上に関する大統領令※2」が発令された



各省庁※3がSBOM導入のガイドラインや指針を公開



SBOM導入に関する需要が増加

SBOMの活用が求められている主な業界



SBOM活用の需要を着実に取り込み
新規顧客の獲得を目指す

※1 SBOMとはSoftware Bill Of Materialsの略称で、特定の製品に含まれるすべてのソフトウェアコンポーネント、ライセンス、依存関係を一覧化したもの

※2 THE WHITE HOUSE: <https://www.whitehouse.gov/briefing-room/presidential-actions/2021/05/12/executive-order-on-improving-the-nations-cybersecurity/>

※3 経済産業省：OSSの利活用及びそのセキュリティ確保に向けた管理手法に関する事例集 厚生労働省：医療機器のサイバーセキュリティ導入に関する手引書

総務省：ICT サイバーセキュリティ総合対策2022

金融庁：金融分野におけるサイバーセキュリティ強化に向けた取組方針 (Ver. 3.0)

国内外におけるマーケティング施策の強化

- 2024年5月～6月にかけて日本および米国にて開催された複数のカンファレンスに出展
- 積極的なマーケティング投資を実行し、露出機会を増加



AWS Summit Los Angeles

開催日：2024年5月22日
開催場所：米国（ロサンゼルス）
参加人数：約5,000人
対象プロダクト：WafCharm
CloudFastener



AWS re:Inforce 2024

開催日：2024年6月10日～12日
開催場所：米国（フィラデルフィア）
参加人数：約5,000人
対象プロダクト：CloudFastener



Interop Tokyo 2024

開催日：2024年6月12日～14日
開催場所：日本
参加者数：約120,000人
対象プロダクト：SIDfm



AWS Summit Tokyo

開催日：2024年6月20日～21日
開催場所：日本
参加人数：約30,000人
対象プロダクト：WafCharm
CloudFastener

本資料の作成に当たり、当社は現時点で入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。また、本資料発表以降、新しい情報や将来の出来事等があった場合において、当社は本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。



世界中の人々が安心安全に使える
サイバー空間を創造する